

6 . 単元計画 日本と西洋の音楽文化を比較しよう (配当時間計 1 4 時間)

題目(配当時間)	学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
(1) 楽譜を通して日本と西洋の音楽文化を探る。(2 時間)	楽譜を自分なりに考案する。 西洋の楽譜がどのような発達を遂げて今日の姿になったのかを辿る。 ネウマ譜で実際に歌ってみる。 日本の伝統音楽の楽譜を考察する。	柔軟な発想で考えさせる。 音や映像、実際の楽器などを使い、楽譜を目と耳との両方からとらえさせる。 西洋の楽譜の統一性、日本の楽譜の多様性についてその理由を考えさせる。
(2) 合奏形態の違いから西洋と日本の価値観の違いを探る。(4 時間)	指揮者の役割について考える。 オーケストラと雅楽、オペラと歌舞伎の合奏形態を比較する。 日本の伝統音楽の合奏形態の特徴をつかむ。	西洋のオーケストラとの比較において日本の音楽の合奏形態が指揮者なしでどうやって合わせているか、また指揮者に代わるものは何かをポイントに考えさせる。
(3) 日本の伝統音楽にチャレンジしよう。～雅楽・尺八・箏～ (各 2 時間、計 6 時間)	講師による各楽器の歴史や音楽、奏法についての講義を聞く。 講師による楽器の演奏、合奏を鑑賞する。 講師の指導で「雅楽」「尺八」「箏」の演奏を行い、日本の伝統音楽の面白さを味わう。	それぞれの楽器の多彩で特徴ある音色や独特の間(ま)に注意して講師の演奏を鑑賞する。 雅楽は、できるかぎり楽器ごとにグループ分けをし、講師の指導のもとで練習させる。 尺八は塩ビパイプで各自で作ったものを使って演奏する。 箏は、様々な奏法を各自で試させる。
(4) 文化の違いによる発声や歌い方の違いを探る。(2 時間)	世界中の様々な地域のユニークな発声や歌を取り上げ、その背景にある文化について考える。 「ホーミー」「ケチャ」を実際に体験する	なるべく多くの例を鑑賞し、異文化に対する興味、関心を喚起する。 時間があれば、「ヨーデル」「民謡」「地声発声」なども体験させる。
まとめ	活動の感想や気付き、今回の学習を通じて理解できたことなどを記述し、発表する。 教師によるまとめ	日本の伝統音楽を理解することで見えてくる、日本と西洋の文化の相違点、価値観の違い、それぞれの良さに焦点を当てる。

評価の観点と方法	教科学習とのつながり など
【思考・理解力】【関心・意欲・態度】 ・創意・工夫が見られるか。 ・楽譜を通して、西洋と日本の音楽文化の違いが理解できているか。 ・西洋の楽譜および演奏法の変遷や、日本の楽譜の特徴をとらえているか。 (作成した楽譜、学習カードへの記述)	・リズム・音程を、図形等のイメージに変換して表現する力(美術) ・西洋の中世・ルネサンスの文化や歴史に関する知識と理解(歴史) ・日本の伝統音楽に対する知識と理解(音楽)
【関心・意欲・態度】 ・西洋の音楽における指揮者の重要性に気付いているか。 ・一糸乱れず合わせることを目指す西洋の文化と、そうではない日本の文化の比較ができているか。(生徒の感想・気付きの記述)	・指揮によって音楽表現がどう変化するかを感じる力(音楽) ・オペラや歌舞伎が興った歴史的な背景に対する知識と理解(歴史)
【関心・意欲・態度】【表現の能力】 ・講師の演奏を音色、奏法等に注意して鑑賞することができたか。 ・演奏活動に積極的に取り組んでいるか。 ・さまざまな奏法を自分なりに工夫しているか。 ・音色や間(ま)を大事にする日本の伝統音楽の特質が理解できているか。 (活動の様子の観察) (生徒の感想・気付きの記述)	・日本と中国、朝鮮半島の歴史的な文化交流に対する知識と理解(歴史) ・楽器の特質に応じた演奏の工夫、および鑑賞の能力(音楽) ・形状や材質を考慮した工具の使い方(技術) ・楽器の音律、音響に関する知識(物理)
【関心・意欲・態度】【表現の能力】 ・それぞれの声や歌が地理的、歴史的な背景と結びついていることを理解しているか。 ・積極的に表現しようとしているか。 (活動の様子の観察) (生徒の感想・気付きの記述)	・世界各国の地理的、歴史的な背景に関する知識と理解(地理・歴史) ・発声やリズムの面白さを感じながら演奏する能力、表現力(音楽)
【思考・理解力】【表現の能力】 ・これまでの学習を振り返り、日本と西洋の文化の特徴、価値観の相違を明確にできる。 (生徒のまとめの記述、発表の様子)	・学習したことを総合的にとらえ、相手に分かるように文章にまとめたり、発表したりする能力(国語)